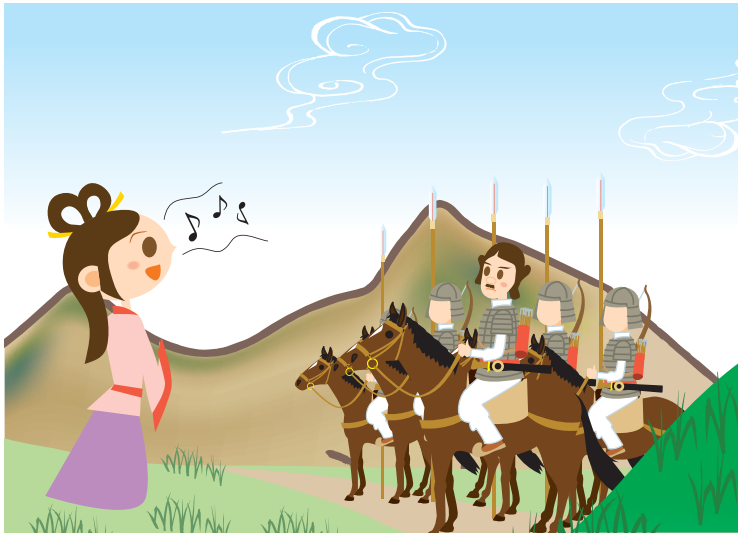


# はじめての古事記

第8話

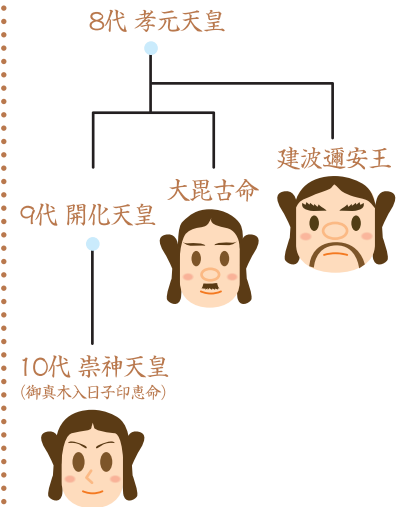


## 建波邇安王の反乱と少女の歌

たけはにやすのみこ

古事記の世界をより深く味わえる講演会があります。詳しくは18ページへ!!

### 〈今回の登場人物〉



『古事記』の中で、第十代の崇神天皇(御真木入日子印恵命)は、大和王権の勢力拡大に尽力した天皇として描かれています。この時代、まだ大和から東の方の支配が盤石ではなかったことから、まず北陸・東海・丹波方面に軍勢を派遣し、確実に勢力下に置くようとしていたようです。

建波邇安王(第八代の孝元天皇の子)の反乱は、大和にいる天皇の軍勢が少なくなるこの隙を狙って起こりました。結論から言うと、建波邇安王の狙いは、北陸方面の将

軍に任命されていた大毘古命(孝元天皇の子)と一人の少女の出現によって阻止されます。

建波邇安王の狙いも知らず、北陸に向けて軍勢を進めていた大毘古命でしたが、山代の幣羅坂(京都奈良府泉境付近)で歌っていた少女の歌に耳を傾けたところ、天皇の危機を知らせる内容であったため、反乱に気づき、急いで大和に引き返します。そして、反乱軍討伐のために、改めて態勢を整えることになりました。

建波邇安王軍は、山代の和詞羅河(木津川)で待ち構えていましたが、建波邇安王は、大毘古命軍に新たに加わった日子国夫玖命(和邇臣の祖)の放った最初の矢で、あっけなく射落とされてしまいました。態勢を整えたことが功を奏したのです。

『古事記』では、歌で危険を知らせてくれる少女が、王権にとって重要な役割を果たしています。

(本文 万葉文化館 竹本 晃)

### 編集部の古事記コラム

今回のお話にてくくる大毘古命軍と建波邇安王軍の戦いの舞台は、現在の京都府木津川市や井手町、精華町のあたりとされています。

近鉄やJRの駅がある精華町の祝園は、戦いで敗走した建波邇安王軍をほふつた(やつつけた)場所という意味で「はぶりぞの」と呼ばれていたことが由来になっているという説があるそうです。

祝園には建波邇安王の霊を鎮めるために建てられたという祝園神社があり、毎年一月にその霊をなぐさめるため、いごもり祭りが行われます。

### クイズ

#### 古事記ハカセへの道

#### 先月の答え

③ 軍隊でした。

今回のお話のように、北陸や東海、丹波方面などに軍を派遣したそうです。

#### 今月の問題

Q 崇神天皇のひ孫にあたり、全国の勢力を平定するために、西や東に遠征したのは誰でしょうか？

- ① ヤマトタケル
- ② クマソタケル
- ③ イズモタケル

答えは来月号を見てね♪



まるまる